

こども教育宝仙大学 研究室だより 第18回

保育現場の先生たちは、いつも穏やかで明るいのか？

保育者は「いつも明るい」「優しい」などのイメージを持っている人が、多いのではないのでしょうか。保育の場は、子どもたちにとって安定感をもたらし、安心して生活できる場であってはいけません。そのため、多くの人が持つイメージの様に、保育者はあたたかな雰囲気、子どもたちが安心して楽しく生活ができる場を作り出しているといえるでしょう。



しかし、保育者の中には、自分の感情を表現することが苦手な人もいます。また、感情の起伏が激しい人もいるかも知れません。そのような特性を持つ人は、保育者に向いていないのでしょうか。保育者に聞くと、そうではないようです。保育者は、子どもの前に立つと「保育者のスイッチ」が入り、保育の営みの中では普段の自分とは異なる感情のやりとりを子どもとしていると言います。例えば、子どもの前で意図的に感情を高め表現することや、自分の感情を抑制し、感情を調整して子どもに適切なかわりをするなどです。保育者はこの「保育者のスイッチ」と表される、感情を調整する保育実践を、どのように獲得しているのでしょうか。

保育者は、毎日様々な人と感情を用いたかわりをします。私の研究は、このような保育者の感情を検討して、保育者のストレスの軽減や、保育の苦手意識の軽減を調べることです。子どもと心を通わせたいと願う保育者の助けになれば良いと考えています。

(松浦美奈 研究分野：保育学、幼児教育学)